

## Ⅱ 相模湾・東京湾水産海洋調査研究に関する座談会

主 題 相模湾・東京湾（駿河湾を含む）に関する水産海洋調査研究について

日 時 昭和42年7月3日（月） PM. 100～500

場 所 東海区水産研究所 第2会議室

コンピーナー 平 野 敏 行

出席者 約40名

話題および話題提供者

i) 伊東における定置水温の特徴について

山田 万樹（代読早野了介）（静岡水試伊東分場）

ii) 三崎の海況について

小金井 正 一（神奈川水試）

iii) 東京湾金沢地先ノリ養殖場の環境

石 野 誠（東京水産大学）

iv) 最近における千葉県沿岸の水質について 関 達 哉（千葉内湾水試）

v) キンメダイの資源調査研究の現状 木 暮 俊 和（神奈川水試）

vi) 相模湾における浅海系及び深海系の底棲動物相と海底地形・底質・海況との関連について

堀 越 増 興（東大海洋研）

vii) IBP計画について

宝 月 欣 二（都立大学）

（尚、ii）及びvi）の話題は未掲載）

### 1 伊東における沿岸定置水温の変化の特徴について

山 田 万 樹（静岡水試伊東分場）

伊東における沿岸定置水温の変化の特徴について調べたものであるが、資料は当分場が伊東港外で実施している昭和27年～41年までのものと気象庁網代測候所伊東分室が実施した昭和7年～26年までのものを用いて、月別に水温の7ヶ年の移動平均値をとり、その経年変動について考察した。また、異常冷水温の出現について、水温の周期性や変動傾向から、その出現の予察の可能性を見出した。

(1) 月別水温の経年変動について

1月：約25年を周期とする周期性がみられる。極大年は昭和7年頃と31年で、極小年は昭和20年である。

2月；1月とほぼ同様に約25年を周期とする周期性がみられる。極大年は昭和7年頃と32年頃で、極小年は昭和20年頃である。

3月；約10年を周期とする周期性がみられる。極大年は昭和7年、17年、28年、34年で極小年は昭和11年、22年、30年、38年である。

4月；約20年の周期性がみられる。極大年は昭和8年と29年で、極小年は昭和20年と38年である。

5月；約20年の周期性がみられる。極大年は昭和7年頃と25年で、極小年は昭和20年と38年頃である。

6月；短期変動はかなり大きい長期変動は極めてゆるい。極大年は昭和8年頃と、33年頃で極小年は昭和24年頃とみられ、周期は25年位である。

7月；昭和22年頃までは短期間の変動はあつても、長期間の変動はなく、従つて周期性はみられないが、22年以降では約13年の周期性がみられる。極大年は昭和23年頃と36年で、極小年は昭和27年である。

8月；約20年の周期性がみられる。極大年は昭和7年と27年で極小年は昭和16年と38年である。

9月；昭和25年以前では周期性は判然としませんが、それ以降では9年の周期性がみられる。極大年は昭和27年と36年、極小年は昭和32年である。

10月；極めて判然とした周期性がみられる。即ち、約13年を周期として変動している。かつ、変動しながら徐々に上昇の傾向がみられる。極大年は昭和14年と27年、38年で、極小年は昭和9年と20年、33年である。

11月；10月に類似した長期変動を示している。即ち、約13年の周期をもつて、変動している。水温の上昇傾向は10月より更に大きい。極大年は昭和15年、27年、33年で、極小年は昭和19年、33年である。

12月；昭和23年頃までは8年位の周期で変動がみられたが、それ以降では4周期が1つの周期となり、32年内外の長期の周期性に変化している。極大年は昭和7年頃、16年、38年、極小年は昭和12年、20年にみられる。

## (2) 異常冷水温の出現について

昭和7年以降の異常冷水温の出現についてみると、昭和11年、20年、31年、38年と大きくみて、4回みられているが、いずれも8～11年、概ね9年の周期で出現している。この出現年の2～3年前の夏季の水温に注目すると、いずれも異常高水温が出現していることがわかる。従つて、この高水温をもとにして、異常冷水現象の起りうる可能性を予知できる（詳細は昭和41年度静岡水試事業報告を参照されたい）。

## 要 約

(1) 各月とも、概ね周期性がみられ、特に冬季において変動（振巾）が顕著である。

(2) 冬季における水温は昭和25年頃を境として考えてみると、全般的にそれ以前、昭和10年頃までは寒冬年であり、それ以降は暖冬年であつたといえるが昭和37年頃から再び水温の下降傾向がみられ、寒冬年に移りつゝある。

(3) 夏季において、近年にない異常高水温を示すと、その2~3年後の冬季に異常冷水が出現する可能性が大きい。

## 2 東京湾金沢地先ノリ養殖場の環境

### 1 1965~1966年冬季の調査結果

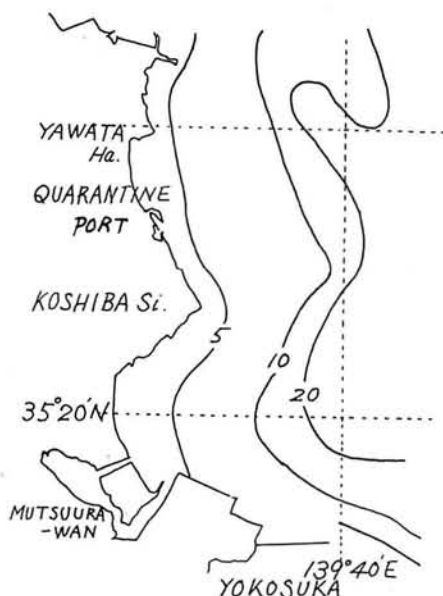
石野 誠 (東京水産大学)

まえがき

1965年10月から1966年4月にかけて、横浜市の依頼による金沢~富岡地先沿岸漁場調査がなされた(研究主任;新野弘東京水産大学教授)。この報告は、その調査結果の一つである。調査は毎月1回行なわれ、原則として予め設けられた定点(32点)において、水温・塩分・溶在酸素量・PH・CODを、0、1、5、10、15m各層について調査した。採泥、測流、プランクトン採集、漂砂調査も随時あわせ行なつた。

調査域は、根岸湾南部から横須賀港北部にいたる沿岸域である。観測点の多くは、水深20m未満の浅海であつて、一部は六浦湾内にも設けられた(第1図参照)。調査結果の概要については、

すでに報告されているが<sup>1)</sup>、ここでは主として水温・塩分・流れの場について検討したい。



第1図 調査海域および等深線図。

### I 調査の概要

実施した調査内容は次のとおりである。

- ① 1965年10月24・25日：一般海洋調査、富岡漁場埋没地調査、小柴港外漂砂調査
- ② 1965年11月28・29日：一般海洋調査、富岡漁場埋没地調査
- ③ 1965年12月26・27日：一般海洋調査、富岡漁場埋没地調査

- ④ 1966年1月8・9日：一般海洋調査
- ⑤ 1966年2月27・28日：一般海洋調査